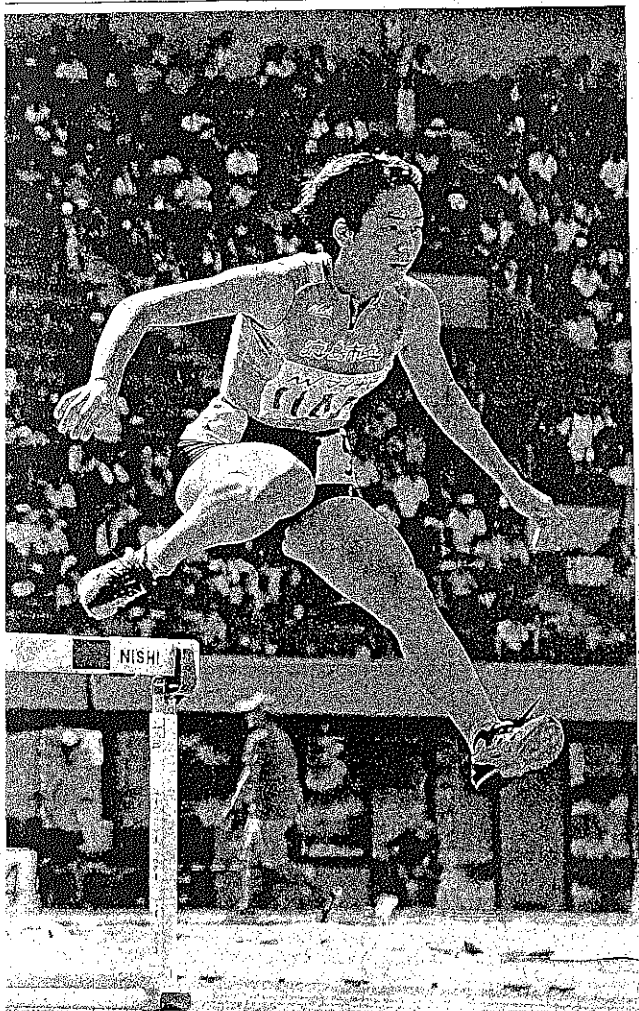
第3種郵便物認可
徳島新聞　2018年(平成30年)8月5日　日曜日

全国高校総体 東海 第4日

4日の全国高校総合体育大会（インターハイ）第4日は、三重県伊勢市の三重交通Gスポーツの杜伊勢などで21競技が行われ、徳島県勢は15競技に出場した。陸上女子400㍍障害で大地彩央里（徳島市立）が59秒00で優勝。弓道団体は男子の徳島市立が決勝トーナメント2回戦を突破し、ベスト8入りを果たした。女子の鳴門渦潮は同1回戦で競り負けた。卓球男子団体の城南は2回戦、女子の徳島市立は1回戦で敗れた。ソフトボール女子の池田辻、レスリング男子団体の池田、空手道団体組手の男女の小松島西はいずれも初戦で涙をのんだ。相撲団体は名西が予選3敗となり、決勝トーナメントに進めなかった。陸上は女子走り幅跳びで木村美海（つるぎ）が5㍍89で5位入賞。重量挙げは69㌔級の金谷武龍（徳島科技）がトータル230㌔で8位に入った。5日は12競技に県勢が出場する。

（1面参照）

大地 今季高校最高V



終盤の歩数削る 栄光プラン完遂

全力で駆け抜けたゴールラインの向こうに、歓喜と栄光が待っていた。女子400㍍障害を今季の日本高校最高記録となる59秒00で制した大地（徳島市立）。「優勝をずっと目標にしていた。めっちゃうれしい」と満面に笑みを浮かべた。

決勝はイメージ通りのレース運びだった。スタートから積極的に飛び出すと、中盤にギアを入れ直して加速。最終10台目のハードルを飛び越えてもペースは落ちなかった。最後は右隣の選手と競り合うようにゴール。勝利の確信は持てなかったが、優勝者インタビューに誘導する係員の声で初めて気付いたという。

午前の準決勝で自己ベストを0秒96更新。全体1位のタイムで決勝に進んだ。好記録の要因はハードル間の歩数。8～9台目を予選までの19歩から17歩に減らした。苦しい終盤に歩数を削るのは至難の業だが、うまくいけば減速が抑えられる。その可能性に懸けた作戦が奏功し、決勝でも同様の歩数で走りきった。

悪天候で予選のみのタイムレースとなった昨年10月のU18日本選手権で優勝。それでもタイムはいまひとつで、一発勝負だったこともあり、素直に喜べなかった。「やっぱり予選、準決勝と勝ち上がっての優勝は格別」。正真正銘の日本一をつかみ取り、晴れ晴れとした表情だった。

集大成の舞台で夢をかなえ「先生や家族、陸上部の仲間の支えが力になった」と感謝を口にする大地。表彰台の一番上でトロフィーを受け取ると、最高の笑顔がはじけた。（石津遼）

女子走り幅跳び 木村（つるぎ）5位

女子走り幅跳び決勝 5㍍89で5位に入ったつるぎの木村

陸上

（三重交通Gスポーツの杜伊勢）

◇予選・徳島県関係

【男子】5000㍍予選「1組」⑲北原潤（つるぎ）15分30秒13＝落選「3組」⑳宮本大生（つるぎ）15分50秒92＝落選▽400㍍障害準決勝「1組」⑦末本拓生（鳴門渦潮）54秒83＝落選

【女子】800㍍予選「4組」⑧小浜麻央（鳴門）2分21秒68＝落選▽400㍍障害準決勝「1組」①大地彩央里（徳島市立）59秒19＝決勝進出▽走り幅跳び予選「1組」⑰吉田美優（鳴門渦潮）5㍍62＝追い風参考＝落選「2組」①木村美海（つるぎ）5㍍97＝決勝進出▽円盤投げ予選「1組」㉛安岡若菜（生光学園）32㍍44＝落選▽七種競技前半⑫藤本千愛（鳴門渦潮）2741点（100㍍障害14秒66、走り高跳び1㍍64、砲丸投げ8㍍23、200㍍27秒67）

◇決勝

【男子】400㍍障害①出口晴翔（福岡・東福岡）51秒17▽400㍍リレー①八王子学園八王子（東京）40秒10

【女子】400㍍障害①大地彩央里（徳島市立）59秒00▽400㍍リレー①立命館慶祥（北海道）45秒68▽5000㍍競歩①村上藍（熊本・尚絅）23分24秒86▽走り幅跳び①高良彩花（兵庫・園田学園）6㍍14⑤木村美海（つるぎ）5㍍89▽円盤投げ①斎藤真希（山形・鶴岡工）49㍍51